

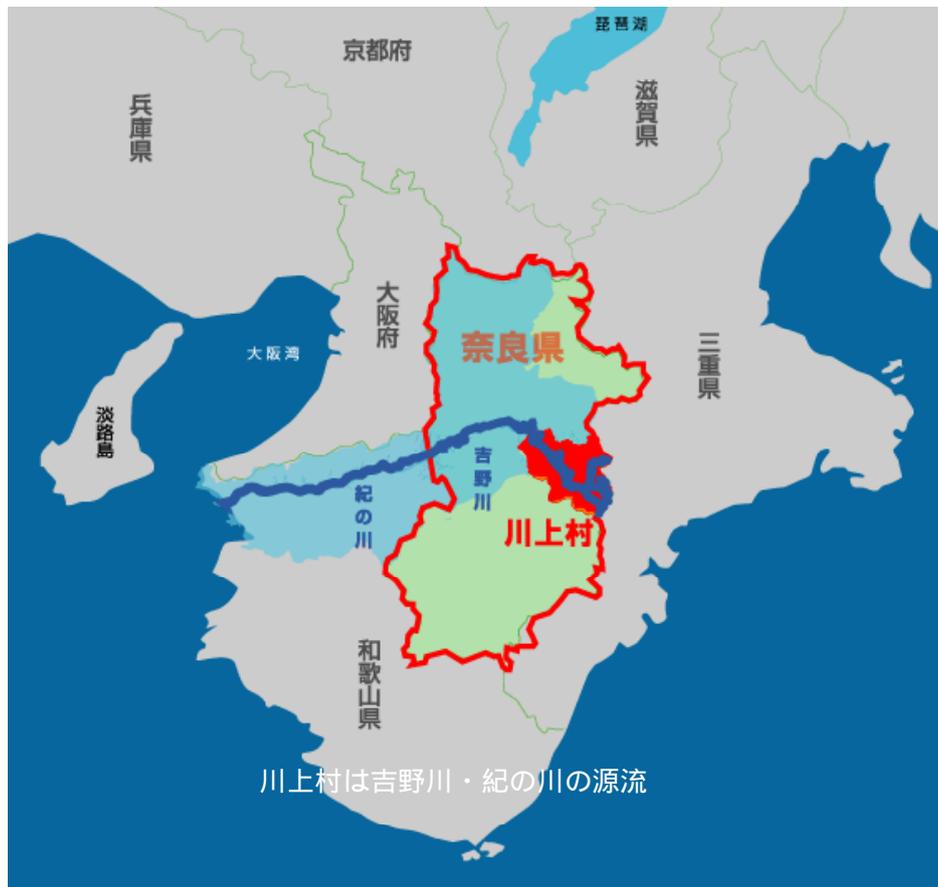


吉野川源流 - 水源地の森を守る

森と水の源流館(公益財団法人吉野川紀の川源流物語)
木村 全邦



奈良県川上村



川上村

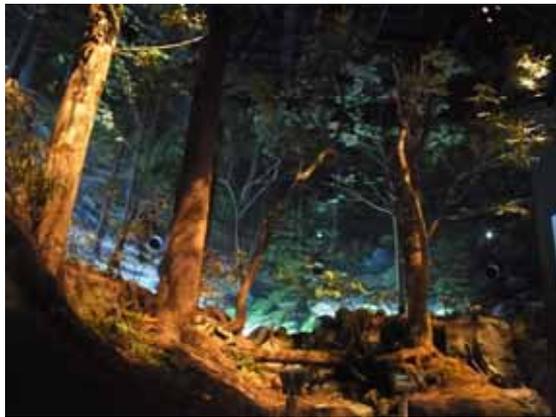
広さ: 2 69km²

人口: 1,557人

人口密度: 5.8人/km²

主要産業: 林業

森と水の源流館



「森と水の源流館」3つの役割

1. 源流の自然、水源地を守ることの大切さをわかりやすく伝えます。
2. 地球環境問題・水資源問題を「水源地」の視点から考えます。
3. 本当の森や水の「楽しさ」を分かち合う交流の輪を広げます。

源流人会

森と水の源流館の友の会組織も運営されています（会員数約100人）。



川上村は、吉野川紀の川の源流（三之公地区）の森約740ha（甲子園球場約200個分）を購入し、保全しています。



大滝ダム

1954(昭和34)年の伊勢湾台風で吉野川紀の川流域に甚大な被害があったことから計画された洪水調節を主な目的として建設された多目的ダムです。

村の中心部が水没することから激しい反対運動が起こり、計画が進展しなくなり、事業が長期化したことから、なかなか進まないダム事業の代名詞として『東のハツ場、西の大滝』という言葉が広まったほどです。

1996年よりダム本体工事に取り掛かり、2012年(平成24年)6月に治水目的の供用が開始されました。ダムによって形成された人造湖は、公募により「おおたき龍神湖」と名付けられました。

ダム建設に伴って、399戸が完全に水没する他、関連移転を含めると475世帯が移転を余儀無くされました。



大迫ダム

大和平野、和歌山平野の主に農業用水の水源とするためのダムです。

米どころでもある大和平野では、昔から水不足に悩まされていました。そのため、たくさんのため池を作って農業をしていましたが、雨水だよりの農業で安定的な農業ができませんでした。そこで、吉野川の水を大和平野に引く「吉野川分水」構想が元禄時代に高橋佐吉により持ち上がり、以来300年以上奈良県民の悲願となっていました。しかし、当時水利権を持っていた紀州藩の反発で実現を見ずにいました。

1950年奈良県と和歌山県両知事によるブルニエ協定が締結され、入之波地区にダムを造って水源とすることで調整が図られました。本体工事は1973(昭和48)年に完了。1974(昭和49)年より本格運用に入りました。

ダム建設に伴って151世帯が水没しました。



川上村は大和の水がめ

川上村の森で生まれ、ダムにためられた水は大和平野や和歌山平野の飲み水や農業用水として使われています。

大滝ダム水没前の迫集落



迫集落



丹生川上神社上社

大迫ダム水没前の入之波 (しおのは)集落



入之波集落
急峻な地形の多い川上村にあって、もっとも平らな集落でした。

ダムができると

メリット

- ・洪水を防げる
- ・農業用水を確保できる
- ・飲み水を確保できる
- ・工業用水を確保できる
- ・水力発電ができる
- ・お金がもらえる

デメリット

- ・先祖代々の土地が無くなる
- ・家がなくなる
- ・自然が失われる
- ・歴史が無くなる
- ・お祭りが無くなる
- ・コミュニティが無くなる

➡ 1から村づくりを・・・

ダム完成後の村づくり

ダムができて
残っている宝物



美しい源流域の資源（自然）を活かした村づくり
「水源地の村づくり」



かわかみせんげん 「川上宣言」 ～水源地の村づくり～



- 一、私たち川上は、かけがえのない水が作られる場に暮らすものとして、下流にはいつもきれいな水を流します。
- 一、私たち川上は、自然と一体となった産業を育て山と水を守り、都市にはない豊かな生活を築きます。
- 一、私たち川上は、都市や平野部の人たちにも川上の豊かな自然の価値にふれあってもらえるような仕組みづくりに励みます。
- 一、私たち川上は、これから育つ子供たちが、自然の生命の躍動にすなおに感動できるような場をつくります。
- 一、私たち川上は、川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけの、すばらしい見本になるよう努めます。

しかし・・・
その時、川上村では・・・

源流域でのパルプ材開発



パルプ材開発のため、
大規模な原生林伐採



パルプ用に伐採された
生きた化石、トガサワラ
などの大木



伐採跡地から崩落した
土砂が谷を埋める



現在の三之公



当時、地方公共団体が森を守る目的でトラストすることは非常に珍しかったので、多くのマスコミで取り上げられました。

こうして、吉野川源流部の森が守られることになりました。

ユネスコエコパークの拡張申請(2015)では、緩衝地域に推薦されています



吉野川源流 - 水源地の森

・森と水の源流館(公益財団法人吉野川紀の川源流物語)が条例に基づいて管理。

・一般の入山を規制。

・継続的に、生物相、生態解明のための**学術調査を実施**。

・入口の一部を、村の取り組みや森の大切さを学ぶための**環境学習・エコツアー**に活用。



水源地の森の自然生態の調査・研究を実施し、報告書を作成し、情報を蓄積している。



水源地の森ツアー

- ・年3 - 4回開催
- ・一般公募により自然にダメージを与えないように、少人数で実行(定員20人)
- ・川上村の水源地の村づくり(樹と水と人の共生)の取り組みや、森(生態系サービス)の大切さを学ぶ。
- ・調査結果も紹介
- ・川上村の自然の民俗利用なども紹介
- ・財団職員 + ボランティア(源流人会)で運営



小学校から大学、社会人、海外の団体も受け入れ、川上村の森の大切さを伝えている。



森と水のワークショップ

・24年度まで子ども向けに水源地の森にふれる機会として開催

・子どもから保護者らに水源地の森の大切さを伝えたり、「水源地の森ツアー」参加への動機づけの機会に。

一方、
伐採された森では…

川上村の森の達人に学
びながら、森づくり(源流
学の森づくり)を展開

(森林所有者より34ヘクタールを100年間貸与)



現場までは車を降りて、約4km。パルプ材伐採のために付けられた林道を約1時間ほど登っていきます。崩れたところは道を付けて乗り越えていきます。



森づくりの基地「源流の小屋」も作りました。昔、林業で作られた作業小屋を再現しました。いろりや風呂もあります。水も、沢から引いてきました。

ここでも、「源流人会」のコアメンバーのボランティアさんに支えられて活動を実施しています。



木を伐ったり、柵を造ったり、作業道を造ったり、食事を準備したり、できることを無理ない範囲で安全に楽しみながら進めています。民俗文化の交流の場としても活用。

**流域市町村や企業との水源地
保護の連携も進んでいます。**



和歌山市民の森づくり

平成16年度より和歌山市と川上村が協定を結び実施。
森の手入れの作業と年2回の体験会を実施。
(今年で12年目)



関西電力労働組合かわかみの森づくり

平成24年度より、川上村と協定を結び年2回、1泊2日で森の手入れを実施。(今年度で4年目)

森のなかまのつながりが森を守ります！

水源地の森ツアーや源流学の森づくりは、この森が好きになった源流人会会員さんともに行っています。源流人会の会員になって、吉野川紀の川源流の森となかよしになりませんか？

森守募金にもご協力ください！

公益財団法人吉野川紀の川源流物語では、募金を募り、「水源地の森」およびその周辺での斜面崩壊防止対策、風景の保全・再生のための啓発看板設置、教育機関向けの教材作成・配布などに役立てさせていただいております。

税制上の優遇措置の対象となります。

資料は後方の、森と水の源流館コーナーにあります。

ご清聴ありがとうございました。